

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和8年第6週 (ARIのみ第5週) の発生動向

□ 全数報告の感染症 (6 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 5 例。3 類感染症：報告なし。
4 類感染症：報告なし。5 類感染症：水痘(入院例) 1 例、百日咳 1 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	40歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			50歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			70歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
			80歳代	女	無症状病原体保有者	なし
		都城	90歳代	男	肺結核	胸痛
5類	水痘(入院例)	都城	30歳代	女	臨床診断例	発熱、発疹
	百日咳	宮崎市	30歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 1,967 人(定点当たり 81.4)で、前週比 132%と増加した。なお、前週に比べ増加した疾患は、インフルエンザ、咽頭結膜熱で、減少した主な疾患は特になかった。

また、第 5 週の急性呼吸器感染症の報告総数は 2,190 人(定点当たり 78.2)で、前週比 119%と増加した。

【インフルエンザ】

報告数 1,594 人(56.9)で、前週比 142%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (38.1) の約 1.5 倍であった。年齢群別は 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

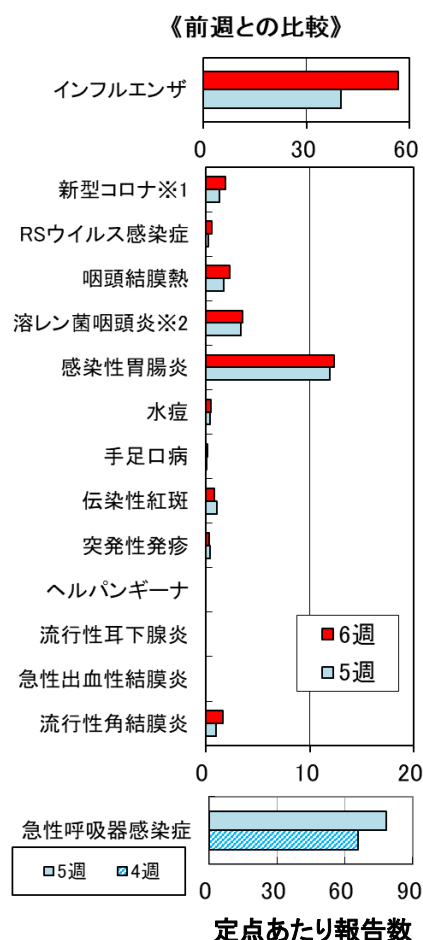
【感染性胃腸炎】

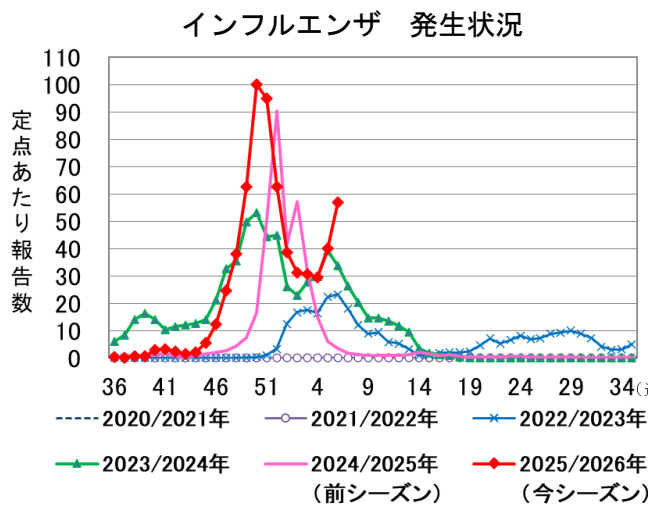
報告数は 185 人(12.3)で、前週比 103%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値* (9.9) の約 1.3 倍であった。年齢群別は 1 歳が全体の約 2 割を占めた。

【咽頭結膜熱】

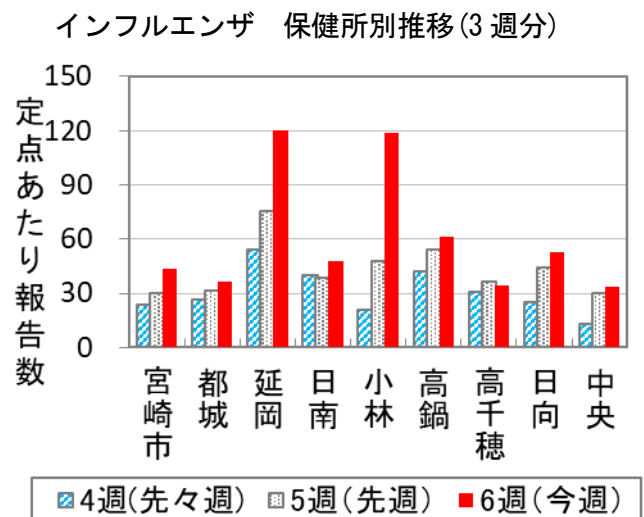
報告数は 35 人(2.3)で、前週比 135%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.61) の約 3.8 倍であった。年齢群別は 4 歳から 5 歳が全体の約 6 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015—2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

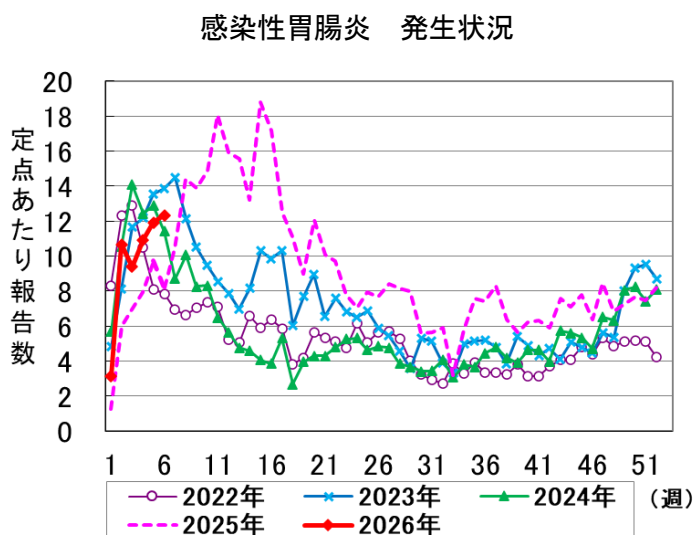
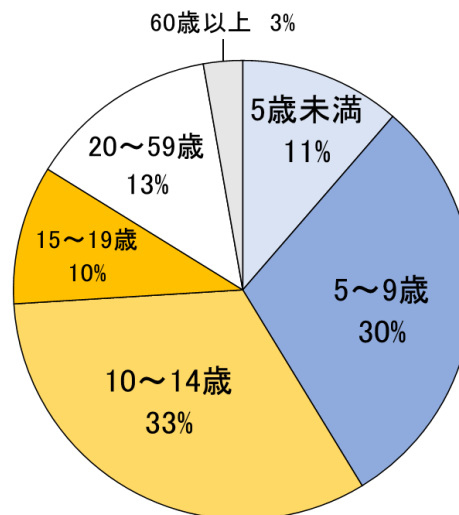




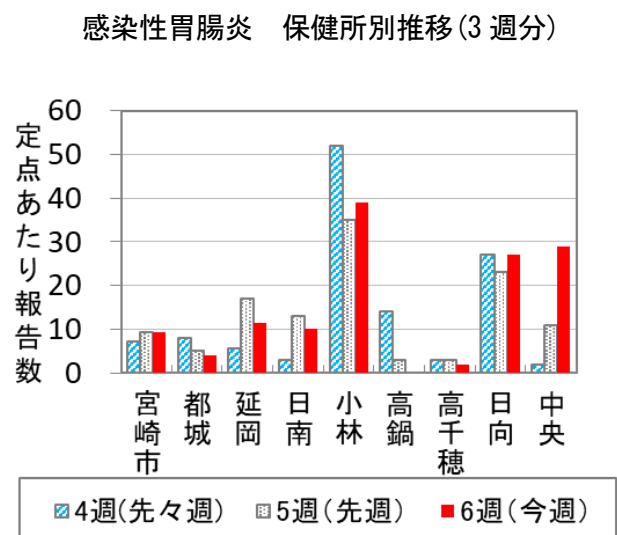
※2025年第15週からは定点医療機関数が58から28に変更

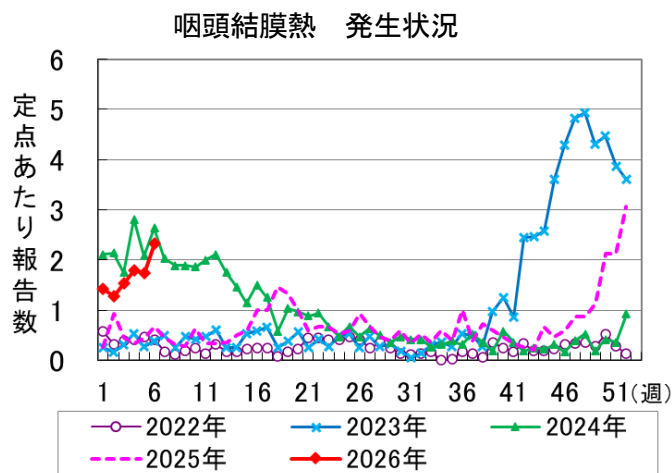


インフルエンザ年齢群別グラフ(第6週)

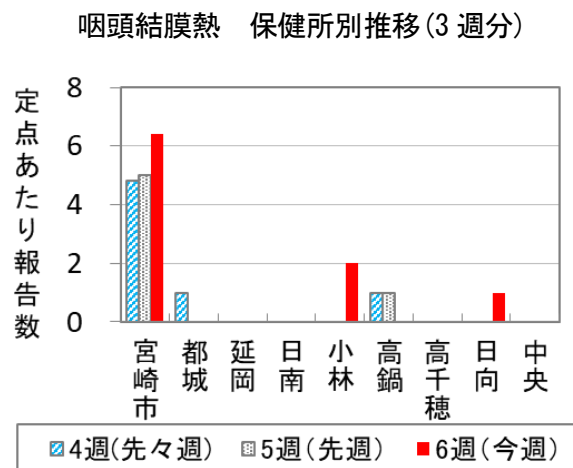


※2025年第15週からは定点医療機関数が36から15に変更





※2025 年第 15 週からは定点医療機関数が 36 から 15 に変更



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は 2 例(定点当たり 0.29)で、宮崎市(1 例)、日向(1 例)保健所から報告があった。年齢は 5～9 歳が 1 例、10～14 歳が 1 例であった。

○感染性胃腸炎(ロタウイルス)：報告数は 1 例(定点当たり 0.14)で、宮崎市保健所から報告があった。年齢は 0～4 歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	インフルエンザ(43.7)、咽頭結膜熱(6.4)
都城	インフルエンザ(36.3)、 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
延岡	インフルエンザ(120.3)、水痘(1.0)
日南	インフルエンザ(47.5)、伝染性紅斑(2.0)
小林	インフルエンザ(119.0)、感染性胃腸炎(39.0)、 水痘(2.0)
高鍋	インフルエンザ(61.0)、伝染性紅斑(2.0)
高千穂	インフルエンザ(34.0)
日向	インフルエンザ(52.5)、感染性胃腸炎(27.0)、 水痘(1.0)、伝染性紅斑(2.0)
中央	インフルエンザ(33.5)、感染性胃腸炎(29.0)、 伝染性紅斑(2.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・インフルエンザ(30)
- ・咽頭結膜熱(3)
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8)
- ・感染性胃腸炎(20)
- ・水痘(2)
- ・伝染性紅斑(2)

※流行注意報レベル基準値※

- ・水痘(1)

※流行警報レベル開始基準値、流行注意報レベル基準値は令和6年度まで運用した参考値です。

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部）

★急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）

（2026 年第 5 週：1 月 26 日～2 月 1 日搬入分）

検出病原体		検出数
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09
	AH3	0
	B型	ビクトリア系統
	山形系統	1
新型コロナウイルス		8
RSウイルス	A型	0
	B型	0
パラインフルエンザウイルス	1型	1
	2型	0
	3型	0
	4型	0
ヒトメタニューモウイルス		0
ライノウイルス		1
エンテロウイルス		0
アデノウイルス		0
検出せず※2		3
受付検体数		15

○ 急性呼吸器感染症（ARI）※¹サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※1 急性呼吸器感染症（ARI）：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか 1 つ以上の症状を呈し、発症から 10 日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

全国 2026 年第 5 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし	
2類感染症	結核	248 例
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	25 例
4類感染症	腸チフス	3 例
	E型肝炎	16 例
	A型肝炎	3 例
5類感染症	重症熱性血小板減少症候群	1 例
	つつが虫病	3 例
	レジオネラ症	26 例
6類感染症	アメーバ赤痢	9 例
	ウイルス性肝炎	2 例
	急性脳炎	11 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例
	後天性免疫不全症候群	14 例
	ジアルジア症	1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	42 例
	水痘（入院例）	13 例
7類感染症	播種性クリプトコックス症	3 例
	破傷風	3 例
	麻しん	14 例
薬剤耐性アシネトバクター感染症		1 例
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		17 例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		28 例
侵襲性インフルエンザ菌感染症		8 例
梅毒		154 例
百日咳		188 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 144%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は、特になかった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 133%と増加した。

インフルエンザの報告数は 114,291 人(30.0)で前週比 180%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (38.0)の約 0.8 倍であった。大分県(52.5)、鹿児島県(49.6)、宮城県(49.0)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 8 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 21,757 人(9.4)で前週比 110%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値* (6.4)の約 1.5 倍であった。群馬県(17.1)、東京都(14.9)、大分県(14.5)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 2 歳が全体の約 2 割を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は 669 人(0.29)で前週比 91%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.32)の約 0.9 倍であった。宮城県(1.7)、京都府(1.3)、鹿児島県(1.2)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 2 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015－2019)の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

疾病名		第05週	第06週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1122	1594	393	145	361	95	238	122	68	105	67
	定点当り	40.07	56.93	43.67	36.25	120.33	47.50	119.00	61.00	34.00	52.50	33.50
新型コロナウイルス感染症	報告数	36	52	10	8	5		2	4	18	2	3
	定点当り	1.29	1.86	1.11	2.00	1.67	0.00	1.00	2.00	9.00	1.00	1.50
RSウイルス感染症	報告数	3	9	3	2	3	1					
	定点当り	0.20	0.60	0.60	1.00	1.50	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	26	35	32				2			1	
	定点当り	1.73	2.33	6.40	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	1.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	50	53	12	16	8	3	6	7			1
	定点当り	3.33	3.53	2.40	8.00	4.00	3.00	6.00	7.00	0.00	0.00	1.00
感染性胃腸炎	報告数	179	185	47	8	23	10	39		2	27	29
	定点当り	11.93	12.33	9.40	4.00	11.50	10.00	39.00	0.00	2.00	27.00	29.00
水 痘	報告数	6	7	2		2		2			1	
	定点当り	0.40	0.47	0.40	0.00	1.00	0.00	2.00	0.00	0.00	1.00	0.00
手足口病	報告数	1	2	2								
	定点当り	0.07	0.13	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	16	12	2		2	2		2		2	2
	定点当り	1.07	0.80	0.40	0.00	1.00	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00	2.00
突発性発しん	報告数	6	5	1		2	1				1	
	定点当り	0.40	0.33	0.20	0.00	1.00	1.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	6	10	4	2	4						
	定点当り	1.00	1.67	1.33	1.00	4.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1	2	1							1	
	定点当り	0.14	0.29	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数		1	1								
	定点当り	0.00	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

2026年 第05週(01月26日～02月01日)

		第04週	第05週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器感染症	報告数	1840	2190	521	274	371	128	183	197	97	242	177
	定点当り	65.71	78.21	57.89	68.50	123.67	64.00	91.50	98.50	48.50	121.00	88.50

ARI 定点：28、小児科定点：15(ARI 定点を兼ねる)、眼科定点：6、基幹定点：7

●全数把握対象疾患累積報告数(2026年 第01週～06週 保健所受理分)

2類感染症	結核	12例(5)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3例		
4類感染症	A型肝炎	1例	つつが虫病	2例
5類感染症	クリプトスポリジウム症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	2例
	梅 毒	8例	破傷風	1例
			水痘(入院例)	1例(1)
			百日咳	12例(1)

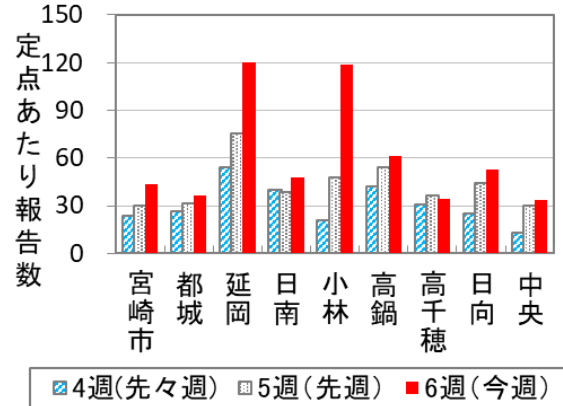
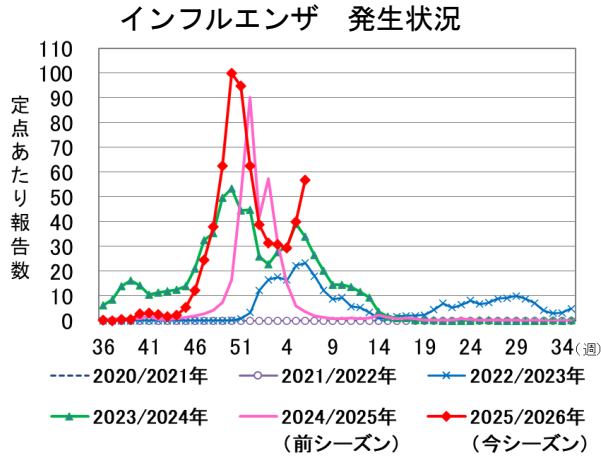
()内は今週届出分、再掲

インフルエンザ情報《県内第6週、全国第5週（再掲）》

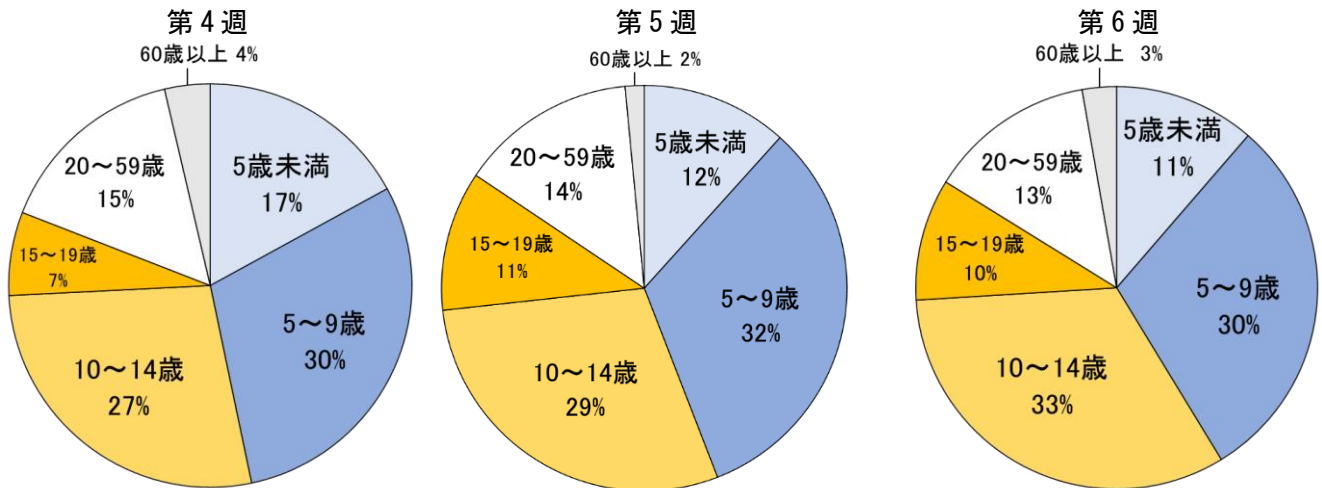
□ 県内第6週インフルエンザ発生動向

2月2日～2月8日までの1週間では1,594人(56.9)の報告があった。前週比142%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値* (38.1)の約1.5倍であった。

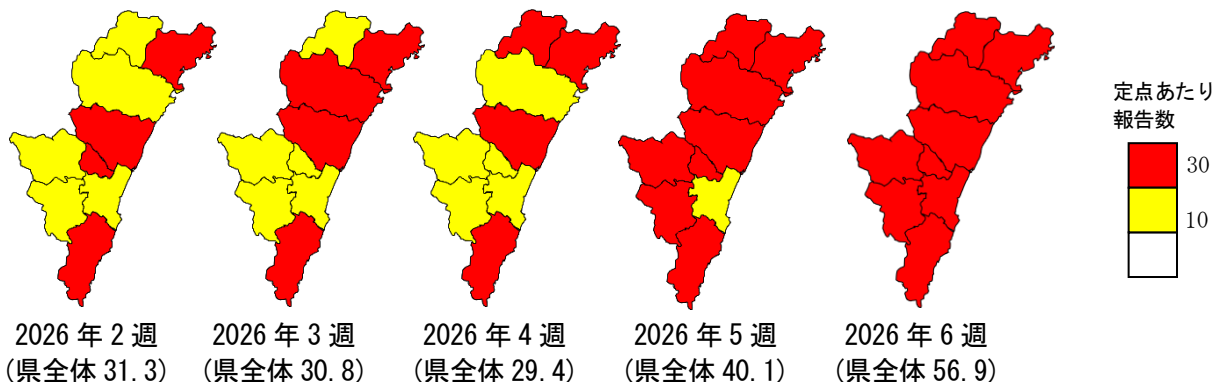
* 新型コロナウイルス感染症流行前5年間(2015～2019)の当該週、前週、後週(計15週)の平均値
インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



インフルエンザ 年齢群別グラフ



保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2026年第2週～2026年第6週



□ 全国第5週インフルエンザ発生動向

1月26日～2月1日までの1週間で114,291人(30.0)の報告があった。前週比180%と増加した。大分県(52.5)、鹿児島県(49.6)、宮城県(49.0)からの報告が多かった。年齢群別では5歳未満が全体の10%、5～9歳が33%、10～14歳が33%、15～19歳が10%、20～59歳が13%、60歳以上が1%であった。